

八尾探

八尾 高安山 史跡散策マップ

YaoTakayasuyama-historic spots-hiking-map

八尾八見しよう!



一般社団法人 八尾市観光協会

自然に恵まれた里山地区の集いや憩いの場

おもてなしの心

ジェラートカフェ
モンテローザ

〒581-0854 八尾市大竹7丁目87番地 TEL 072-970-5151
営業時間 10時~17時(定休日は18時まで) 定休日 水曜日(7月~9月は休まず営業)

近鉄八尾駅の真下で
情報発信中!

八尾市観光協会

八尾の観光名所やイベント情報をご案内しています。
お気軽にお立ち寄りください。

八尾市北本町2-1 ペントプラザ20号(近鉄八尾駅高家下)
営業時間 10:00~18:00(休日 年末年始(12月29日~1月3日))
電話 072-997-6226 FAX 072-945-0080

高安山の歴史

高安城跡

高安山頂は、日本書紀の天智6年(667)条に記されている古代山城、高安城跡に推定されています。高安城は、天智天皇が白村江の戦いで唐の大軍に大敗したのちに、唐、新羅の侵攻に備えるために築いた城の一つで、烽火台も置かれました。高安山頂の三角点のあるところが、烽火台の推定地になっています。また、天武元年(672)には、壬申の乱の戦いの舞台にもなりましたが、大宝元年(701)には廃止され、その後、和銅5年(712)には烽火台も廃止されました。



八尾 高安山史跡散策マップ

初版:平成24年(2012)3月31日
第2版:平成28年(2016)4月1日 発行:(一社)八尾市観光協会
〒581-0802 大阪府八尾市北本町2-1 ペントプラザ20号
TEL:072-997-6226 FAX:072-945-0080
デザイン:NPO法人歴史体験サポートセンター楽古
表紙イラスト:井上ミノル 写真提供:牧江良祐氏(★印写真)

みどころ 施設ガイド



【所在地】八尾市大竹5丁目143番地の2
【アクセス】近鉄信貴線服部川駅から北へ徒歩20分
近鉄河内山本駅から近鉄バスで「大竹」下車、徒歩5分
【開館時間】午前9時~午後5時
火曜日、祝日の翌日、年末年始
【休館日】学習館展示室のみ有料(大人200円、中学生以下無料)
古墳及び展示室以外の学習館の見学は無料
【電 話】072-941-3114 【駐車場】7台(有料)

2 八尾市立歴史民俗資料館

市内の文化財を調査研究し、収集・保存を図るとともに、展示・公開するための施設として昭和62年11月にオープンしました。常設展示では「大和川流域と高安山」をテーマに八尾市の歴史を紹介し、かつて河内の重要な産業のひとつであった河内木綿の綿織り・糸紡ぎ・藍染などの体験コーナーも設けています。また、春や秋には特別展示や企画展示、講演会等を開催しています。

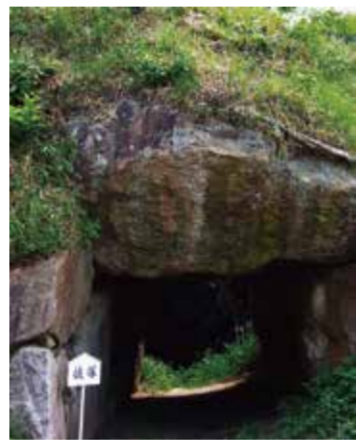


【所在地】八尾市千塚3丁目180番地の1
【アクセス】近鉄信貴線服部川駅から北へ徒歩8分
【開館時間】午前9時~午後5時 【休館日】火曜日、年末年始、展示替えの日
【入館料】大人200円、高・大学生100円、中学生以下・65歳以上無料
【電 話】072-941-3601 【駐車場】6台(無料)



G 峠の地蔵尊(立石峠)

立石峠を少し降りたところにあります。右手に錫杖、左手に宝珠を持つ地蔵尊です。「右 志き山 たつたみら」「左まつのをさえ」「為無縁法界 久安寺村 享保二十乙卯年四月吉日 市兵衛」の銘があり、江戸時代中頃の享保20年(1735)に、峠よりも奈良側にある久安寺村の人によって建立されました。峠を行く旅人を案内し、見守る地蔵として立てられたのでしょう。



H 国史跡 大窪・山畑7号墳(抜塚)

来迎寺の境内にある7世紀前半に造られた古墳です。現在、横穴式石室の羨道部分のみが残り、玄室がまったく失われているために、トンネル状になっています。使われている石材も大きく、高安千塚古墳群中で最大の石片袖式の石室であったとみられます。

I 市史跡 二室塚古墳(服部川25号墳)

6世紀後半頃に造られた古墳です。この石室は、石片袖式の玄室を2個つないだ構造で、全国的にも類例のない貴重なものです。また、明治時代に「日本考古学の父」といわれるW・ガウランドがガラス乾板で撮影を行い、「双室ドムメン」として海外で紹介した古墳としても有名です。ガウランドが撮影したガラス乾板は、現在大英博物館に保管されています。※石組みが弱くなっているので、外から注意して見学してください。



みどころ 史跡ガイド



A 信貴山道 道標

大阪から信貴山朝護孫寺への参拝道である信貴越え(黒谷道)の道沿いには、江戸時代に建てられた丁石といわれる石が残っています。これは昔の距離にして一丁(約109m)の目印にしたものです。東高野街道と信貴山道が交わる四辻に、宝永5年(1708)年に建てられた道標を基点に、約四十二丁(約5キロ弱)で信貴山に行くことができます。また、江戸時代後期の文化12年(1815)に建てられた十丁灯籠の石材をはじめ、十三丁石、十四丁石、廿一丁石(二十一)、二十二丁石等が残っています。



廿一丁石道標

B 旧信貴山急行電鉄プラットホーム

高安山駅を降りて、信貴山行のバス停に向かう左手に、昭和初年頃にあった信貴山急行電鉄の高安山駅のコンクリート製のプラットホームの跡が残っています。
信貴山急行電鉄は、昭和5年12月15日に運行を開始しました。信貴山口駅からケーブルで高安山駅に上り、そこから電車で信貴山門駅まで通じており、大阪の上本町から40分で信貴山に行ける「大阪・信貴山近道電車」と銘打って、運行されていました。しかし、昭和19年には戦局が深まる中で、不要不急線として廃止され、昭和32年にケーブル線のみが近鉄によって再開されました。現在は信貴山の虎にちなんだ黄色の可愛らしいケーブルカーが走っています。



C 高安山気象レーダー

昭和43年(1968)に建設されました。気象庁、大阪管区気象台所管の気象レーダーです。大阪管区気象台から遠隔操作され、南は四国の室戸岬のはるか洋上、西は広島県、北は若狭湾北方海上、東は富士山麓と半径約300kmの範囲の気象観測を行っています。特に室戸岬との連携により紀伊水道に入る台風は完全に把握でき、瀬戸内海を横断する台風も広島レーダーとの関連により十分な観測がされています。平成22年3月に建屋の建て替え等が行われました。

みどころ 史跡ガイド



J 十三塚・十三峠の地蔵尊

十三峠付近にある地蔵は、「明和2西暦 福地」の銘文があり、江戸時代中頃の明和2年(1765)に平群の福貴畑の人によって建てられたと考えられます。
また峠の北側には十三塚があります。これは江戸時代の民間信仰より造られたもので、王塚という大きな塚の南側に小さな塚が6つずつ、合計13基の塚が並んでおり、国の重要有形民俗文化財に指定されています。

十三塚は全国各地の峠に多く造りましたが、このように完全なたちで残っているものは少なく貴重です。王塚の前の石碑の銘文には、「十三塚 嘉永三年庚戌四月吉日 施主大阪 掃磨屋太七 淀屋定助」とあり、江戸時代の終わり頃、嘉永3年(1850)大阪の商人によって建てられたものです。

K 水香地蔵尊

平安時代初期の承和3年(836)に巻演という僧が、地蔵菩薩を安置し、お堂を建てたと伝えられています。本堂の地蔵尊の背面には「元禄七甲戌年四月廿日泉屋平右衛門作」の銘があり、江戸時代の元禄7年(1694)に造られたものです。
本堂南側には、清水が湧き出ており、俗に「弘法水」といわれ、弘法大師が旅人のために祈願して得た霊水と伝えられています。この水を求めて現在も多く人が訪れ、春は桜の名所になっています。



L 神立茶屋の辻

八尾側から十三峠への登り口になる場所です。昔は十三峠越えの旅人のための茶屋が立ち並んでいたことから、この名が付いています。
当地には原葉平の高安通いの伝説で有名なところがあります。伊勢物語がもともとなっている話で、葉平がここにあった茶屋の娘を見染め通います。しかしある日、いつもの笛を吹く合図をせずに訪れ、東窓が開いていたので歩いてみると、娘が自分ごはんを盛って食べており、葉平が興奮して、笛を置いて逃げ帰ってしまったというもの。平安時代の高貴な女性は、侍女が給仕するのが普通でした。以来、高安の里では東窓を開けなくなったと言われています。

D 高安山古墳群



高安山1号墳

高安山頂近くの気象レーダーがある尾根に7世紀後半頃に造られた古墳です。高安山1号墳~3号墳の3基の古墳が確認されています。このうち真ん中の1号墳は「武器庫」の名前で呼ばれています。1号墳と2号墳は、大阪府教育委員会によって昭和55年に発掘調査が行われ、墳丘は外側に列石を巡らす一辺10mの方墳で、人を葬った場所は、幅1mの幅の狭い無袖式といわれる石室であり、石室からはお供えのための須恵器や土師器といった土器がみついています。高安城に關係した人物のお墓である可能性があります。

E 信貴山城出城跡

中世の大規模な山城で、平群町側に丸がある信貴山城の出城跡です。信貴山城は戦国時代に木沢長政や松永久秀が入城し、大和を抑える本格的な山城として整備されました。
道の北側の高安山頂の三角点があるところが丸で、南側に二の丸、三の丸に当たります。一の丸の部分は古代高安城の烽火台跡にも推定されており、昭和57年2月、大阪府教育委員会が発掘調査を行ったところ、古代高安城関係の遺構がよくわかりましたが、16世紀の建物2棟や鏝の部品、古銭、碁石など、信貴山城関係の遺物が見つかりました。

F 高安城倉庫址礎石群



昭和53年4月、市民グループ「高安城を探索会」の2年にわたる探索の結果、6棟分の倉庫の礎石が発見されました。この場所は、高安山頂から200mほど奈良側へ下ったところで、平群町久安寺の小学金や塚になります。1~6号の建物のうち、2号・3号の礎石建物が発掘調査され、奈良時代初期頃に建てられた3間x4間の倉庫址であることが確認されました。
続日本紀によると、高安城の廃止後の奈良時代にも、和銅5年(712)に元明天皇の高安城行幸の記事などがあり、これに関連する遺構かもしれません。

M 玉祖神社

延喜式内社で、高安山11ヶ村の氏神神社であり、7月の夏祭りには、ふとん太鼓や神輿が奉納されます。玉祖氏の祖である玉祖命を祀っており、和銅3年(710)に高麗国(山口県)の玉祖神社から分社したのが、はじめとされています。
また文治元年(1185)に北条時政が神宮寺である國光寺に出した最古の木造札があり、国の重要文化財に指定されています。その他、境内には豊臣秀頼が寄進したと言われている慶長9年銘(1604)の石灯籠があり、参道石段のところには、幹回り8mもある大きなくすの木があり、府天然記念物に指定されています。



N 府史跡 愛宕塚古墳



神立の共同墓地(河内七蔵の一つ)の西側にあります。
古墳時代後期の円墳で、墳丘の大きさは直径約35m、高さ約6.5mあります。埋葬施設は両袖式の横穴式石室で、全長15.7m、玄室部分は約19.6㎡(約11畳分)の大きさがあり、大阪府下でも最大級の規模です。被葬者は明らかではありませんが、当時の八尾を中心とした地域は物部氏との関係が深いため、物部一族の墓という説もあります。
盗掘を受けて凝灰岩製の家形石棺は壊れてしまいましたが、掘じり痕跡などからはじめてとする武器、鉄地金銅張りの馬具、ガラス玉の首飾り、須恵器等の豪華な副葬品の一部が見つかっています。古墳は大府府指定史跡となっており、出土遺物も大阪府指定有形文化財となっています。

O 国史跡 心合寺山古墳

心合寺山古墳は、全長160mの中・北河内最大の前方後円墳で、昭和41年に国の史跡に指定されました。中河内地域を治めた古代豪族の墓と考えられます。平成4年から史跡整備に伴う発掘調査が行われ、埴輪列や埋葬施設など古墳の姿が明らかになり、鏡・甲冑などの副葬品のほかに「水の祭龍場を表した埴輪」に代表されるさまざまな埴輪が出土しました。平成17年に整備が完成し、造られた当時の墳丘の形や、埴輪などのが復元されています。



心合寺山古墳